

# 説明的文章(1)

◆指導ページ P.2～5◆

【指導のポイント】

説明的文章は、はじめに話題の導入部分がある場合が多い。導入部分は読み手の興味を引き、これから提示する問題点につなげる働きをする。次に、筆者の考える問題点が提示される。その問題点に対して、筆者は自分の考え・意見・主張を述べることになる。筆者の考え・意見・主張の根拠となる事例や論理を展開するのが説明部分である。

## 例題の板書例

■話題  
「もの作り」…「商品価値」を与え、「使用価値」を生む

■説明  
☆「もの作り」…物に価値を与えること  
「商品価値」…物に与えられた新しい価値

☆新しい価値「商品価値」を生み出していくことが「もの作り」  
(例) 鉄鉱石(一トン二千元) ↓ 鋼板(五万円) ↓ 自動車(百万円)

☆「もの作り」はもう一つ大事な変化「使用価値」も生み出す  
「もの作り」の一番大事な性格…「使用価値」を生み出すこと

= 「人の役に立つ」ものを作り出すこと

■筆者の考え  
もの作りというのは、単なるお金儲けのための仕事ではなく、人の役に立つための仕事である

## 演習問題の板書例

■話題  
心理学…他人のこのころへの好奇心から作り上げられた学問

■説明  
◇内省法  
自分のこのころを見つめて正直に報告  
何人もの人たちが同じような体験  
共通なものが見つかる  
一つの法則が見つかる  
おなじような体験をする他人のこのころの動きがわかる

◇行動心理学  
「このころの働き↓からだに変化」…測れる⇨数字で比較可能  
学問らしい

○欠点  
・学問らしくない…人間が日常におこなっている  
・科学的ではない…報告内容が数字で比較不可能

○欠点  
・からだの変化は「このころ」のこまかな動きがすべて現れるわけではない  
大まか・不正確

■筆者の考え  
内省法も行動心理学の方法も、どちらがいいというものではない。しかし、科学的に見えない内省法であるが、すぐれた小説家や詩人たちのような観察や表現が、じょうずな人たちが、この方法を用いて、このころのことをこまかに教えてくれたおかげで、はかり知れないほどたいせつな知識がほくたちと与えられた。

# 説明的文章(2)

◆指導ページ P.6～9◆

**【指導のポイント】**

説明的文章において、筆者の主張・意見は文章のもっとも大切なことである。読み手に伝えたいもっとも大切なことは、文章の中で繰り返し使われている語句や言い換えの行われている文に着目して捉えることができる。こうした語句と言い換えられている文の要約をつなぐことで、文章全体のもっとも大切なことを捉えることができる。

### 例題の板書例

**■序論**  
失敗にはマイナス面もあるが、失敗を恐れるあまり何もしないのはよろしくない

**■展開**  
☆何の問題意識も目的もたない人⇨行動しない人・できない人：失敗すらできない  
☆失敗を避けることに集中：大きな成功は不可能  
↓日本の社会：減点法で人間を評価しがち⇨見て見ぬふり  
☆失敗に遭遇：新しい仮説を検証、または何らかの目標を成し遂げようとしているとき  
←  
☆新しいことに挑戦⇨予測していなかった出来事が起き、進歩が生じる余地がある  
←  
☆失敗は必然的に起こると観念し、勘定に入れて行動  
↓失敗体験を重ねて養われた体感や実感⇨ものを考える作業にたいへん役に立つ  
←  
☆「失敗と成功の螺旋」：失敗と成功を繰り返すうちに、設定される課題の内容は、深まり、高まっていく  
←  
☆「ある一定の成果を挙げるまでの失敗と成功の螺旋」  
↓創造の過程で、だれもが共通してやっている、暗黙の原理

**■結論**  
さまざまな着想を結び付け、もともとバラバラに漂っていた着想どうしの脈絡をつけ、全体を一つの概念にまとめる思考の過程  
⇨自分の頭で考えてものをつくる⇨「創造力」を必要とされるどの分野にも共通する

**■話題**  
日本人と欧米人の会話常識

**■展開**  
ピュブリリウス・シルスのことば  
ローマ時代から、考えることと口にするこの分裂は意識されている  
⇨口が滑る⇨「思ったこと⇨口にする⇨人を傷つける」  
⇨日本人⇨寛大⇨欧米人⇨用心⇨「滑る」こと⇨許さない  
欧米人と日本人の会話  
◇欧米人：自分の考えを伝える場合⇨喋る  
隠す場合⇨喋る  
◇日本人：「言っではならぬこと」を自制⇨黙りがち⇨退屈  
遠慮・慎み深さ  
⇨自分の心を開く習慣を見失う：ネガティブ  
⇨「言っではならぬことを心得よ」： unnecessary 警句  
⇨「言っではならぬこと」を忘れようとするべき

**■筆者の考え**  
◎「日本人⇨会話の礼儀」：外国人よりもずっとわかまえてい  
「自我を押える訓練⇨社会的訓練」できている  
態度で伝えることは不可能：欧米人⇨伝わらない  
⇨お喋りの仲間に加わるほかない：欧米人と「会話」する必要  
⇨浅い会話から上質な会話に：「慎み」+「率直+明快な表現力」⇨大きな魅力

**重要語句**  
○心くばり⇨相手のためになるように、思いやること。

### 演習問題の板書例

**■序論**  
失敗にはマイナス面もあるが、失敗を恐れるあまり何もしないのはよろしくない

**■展開**  
☆何の問題意識も目的もたない人⇨行動しない人・できない人：失敗すらできない  
☆失敗を避けることに集中：大きな成功は不可能  
↓日本の社会：減点法で人間を評価しがち⇨見て見ぬふり  
☆失敗に遭遇：新しい仮説を検証、または何らかの目標を成し遂げようとしているとき  
←  
☆新しいことに挑戦⇨予測していなかった出来事が起き、進歩が生じる余地がある  
←  
☆失敗は必然的に起こると観念し、勘定に入れて行動  
↓失敗体験を重ねて養われた体感や実感⇨ものを考える作業にたいへん役に立つ  
←  
☆「失敗と成功の螺旋」：失敗と成功を繰り返すうちに、設定される課題の内容は、深まり、高まっていく  
←  
☆「ある一定の成果を挙げるまでの失敗と成功の螺旋」  
↓創造の過程で、だれもが共通してやっている、暗黙の原理

**■結論**  
さまざまな着想を結び付け、もともとバラバラに漂っていた着想どうしの脈絡をつけ、全体を一つの概念にまとめる思考の過程  
⇨自分の頭で考えてものをつくる⇨「創造力」を必要とされるどの分野にも共通する

**■話題**  
日本人と欧米人の会話常識

**■展開**  
ピュブリリウス・シルスのことば  
ローマ時代から、考えることと口にするこの分裂は意識されている  
⇨口が滑る⇨「思ったこと⇨口にする⇨人を傷つける」  
⇨日本人⇨寛大⇨欧米人⇨用心⇨「滑る」こと⇨許さない  
欧米人と日本人の会話  
◇欧米人：自分の考えを伝える場合⇨喋る  
隠す場合⇨喋る  
◇日本人：「言っではならぬこと」を自制⇨黙りがち⇨退屈  
遠慮・慎み深さ  
⇨自分の心を開く習慣を見失う：ネガティブ  
⇨「言っではならぬことを心得よ」： unnecessary 警句  
⇨「言っではならぬこと」を忘れようとするべき

**■筆者の考え**  
◎「日本人⇨会話の礼儀」：外国人よりもずっとわかまえてい  
「自我を押える訓練⇨社会的訓練」できている  
態度で伝えることは不可能：欧米人⇨伝わらない  
⇨お喋りの仲間に加わるほかない：欧米人と「会話」する必要  
⇨浅い会話から上質な会話に：「慎み」+「率直+明快な表現力」⇨大きな魅力

**重要語句**  
○心くばり⇨相手のためになるように、思いやること。

# 小説文(1)

◆指導ページ P.10～13◆

【指導のポイント】

小説文で作者が読み手に伝えたいことを読み取るには、時・場所・登場人物の三つから物語をおさえる必要がある。時や場所については、その状況や様子を細かく説明した内容が描かれている。これを情景の描写という。物語の展開を理解する上で、こうした情景の描かれ方も重要な要素となる。登場人物の気持ちを表現する手法のひとつに、情景の描き方を利用して表現することがある。

### 例題の板書例

■季節

冬…深くつもった雪

■時

朝

■場所

シカおとし…いつぼうは断崖の千尋の谷、いつぼうが一枚岩のかべ  
その後ろは剣のような岩のかべでいきどまり

■登場人物

房吉老人：猟師

クロ：猟犬

残雪：猟犬

〈がけくずれ〉…とぎすました四本角を持つ、大きなおすジカ  
めすジカ…〈がけくずれ〉といっしょににげまわっている

■展開

〈がけくずれ〉 戦闘態勢

クロ おそいかかるうとして機会をうかがっている

残雪 〈がけくずれ〉にいどみかかって、谷底になげこまれた

房吉老人 〈がけくずれ〉に勝つことができそうだしうれしい

← 〈がけくずれ〉のみけんをねらい、銃で撃つ

← 〈がけくずれ〉は千尋の谷底へ落ちていく

← 〈がけくずれ〉といっしょにいためすジカに気がつく

重要語句

○千尋せんじんとは両手を広げた長さを表す。人の千倍が千尋だが、一般的にはとても長い・高い・深いなどの様子を表す。

### 演習問題の板書例

■場面

吉田クンに会いに行つた帰り道

■展開

◇母親に見送られる

〈テル〉 ・会社に出かける父親の気分

◇行ききの電車

〈テル〉 ・一人旅が家から駅までしかなかったので残念

◇吉田クンのうち

〈テル〉 ・電車に一人で乗りたい

◇帰りの電車

〈テル〉 ・単独行の楽しみを十分に満喫

・もうどこまでだつて一人で行ける

・降りる駅が近づいたのが物足りない

◇駅の改札

〈テル〉 ・キップがなく、どうしていいかわからなくなる

〈テル〉 ・無人の改札口はいまなら逃げられそう

・無人の改札口から駅員が襲いかかってきそうで怖い

・改札口が気味悪いから逃げよう↓ホームへ

◇キップを渡さないで出ようとした男が駅員につかまる

重要語句

○単独行たんぱくはひとりで行動すること。

4

小説文(2)

◆指導ページ P.14～17◆

【指導のポイント】

作者が読み手にもっとも伝えたいことは、主題といわれる。主題は登場人物とりわけ中心的な登場人物の気持ちの動きに描かれている場合が多い。中心的な登場人物の気持ちは、気持ちを直接表現する語だけでなく、会話の内容と表現や行動、その人物の描かれている情景から読み取ることができる。

例題の板書例

■〈夜〉

三羽のガン わたしの家の近くを飛んでいる

← サワンと三羽のガンが鳴きかわす

↓話し合っている様子⇨仲間と飛んでいきたい

← わたし サワンに屋根から降りてくるよう言いつける

↓サワンが逃げ出すと心配

← サワン 三羽のガンの姿と泣き声が消えるまで屋根から降りようとしな

← わたし サワンを手荒く扱いたくない

↓サワンが私の愛着を裏切つて仲間と飛び立つことはないだろう

…わたしの予想と違う結果となったことの暗示

■〈翌日〉

わたし サワンをしかる

↓仲間と飛びたがる気持ちはわかるが、それを許すことはできない

重要語句

○ガン⇨カモ目カモ科の水鳥を呼ぶ総称。多くの種類は渡りをする。

演習問題の板書例

■場所

二丁目公園

■登場人物

きみ(和泉)：野球の練習をするつもりで自転車で公園へ

中西くん：公園で一人で野球の練習中

■きみの気持ち

○中西くんと仲直りしたい

公園にだれもいない⇨素直に自分の気持ちを伝えられそう

← 中西くん：きみが公園にいるのに気がつく

○思っていたこと⇨伝えられない⇨中西くんと対立

← 中西くん：遠ざかっていくボールを追いかける

○中西くんがきみから逃げていると思う

⇨きみと話すことを嫌っていると感じる

← 中西くんへの怒り⇨きびしいことば

← 中西くん：怒りの表情

○中西くんと心の距離⇨縮まらない

⇨きみは中西くんへ素直になれない

重要語句

○自己嫌悪⇨自分のことが、自分でいやになること。

# 随筆文

◆指導ページ P.18～21◆

【指導のポイント】

随筆文は、筆者の体験や見聞を通して感じたことを記述した文である。筆者の考え方や意見と、筆者の体験や見聞を区分して読むことが必要である。随筆文では筆者の独特な文章の構成であったり、表現が使われたりするので、筆者のものの見方や価値観をつかみとることが求められる。

## 例題の板書例

■話題

私「比較惑星学」の先生と出会う

■展開

☆先生…話のスケールが大きい↓時間の流れ

⇨万単位、億単位の年月を実感として把握

↓人類が減びること…当たり前前のこと

☆私…地球の滅亡↓実感できない

↓地球環境の問題⇨「地球⇨有限」

↓「一人の地球人がささやかな努力」⇨無駄↓寂しい

☆先生…地球が痛んでいることを実感⇨「ささやかな努力⇨大切」

☆私…「地球↓なくなる↓なにをしても無駄」という発想

↓「なにも生まれてこない」

↓「ささやかな努力⇨続けよう」

重要語句

○ささやか⇨規模や形が小さい様子や、量がわずかな様子。

■話題

桜の花に対する「わたし」の心情

■展開

☆理科の授業で桜の花の観察

わたし…なにか無残な感じがした

・フナ解剖と同じくらいこわかった

↓花のかたちをたもったままの桜は、触れてはならないもののように感じられて、こわかった

☆日曜日の昼間、養老院の桜並木

わたし…理科教室の机の上に置いてあったときほど、こわくなかった

・だんだん愉快になってきた

☆おばあさんとの会話

わたし…花のかたちを持った桜はまだ生きているのだと気づかされた

↓水の満たされた器に桜をあげることを想像

⇨足もとが崩れてゆくような感じがした

・とてつもなく気持ちよかった

重要語句

○無残⇨いたましいこと。あわれなこと。

## 演習問題の板書例

6

古典

◆指導ページ P.22～25◆

【指導のポイント】

古典を読む上で特に注意するのは次の3点である。歴史的仮名遣いが使われている点、主語・述語・助詞が省略されている点、現代語と意味の異なる古語がある点である。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、省略されている主語と助詞を補うことで、文の意味を捉える。また、古語の現代語とは異なる語句の意味をおさえることで、内容がさらに明らかになる。

例題の板書例

1  
昔のこと

竹取りの翁

野山で竹を取る

名前||さぬきのみやつこ

← 竹の根もとが光る

← 竹取りの翁 不思議に思い筒の中を見る

← 光っている筒の中には三寸ばかりのかわいい人がいた

2

春

「夜↓明けるころ」||よい

・ 山に接している空の部分||だんだん白くくつきり見えてくる  
・ 紫色の雲がたなびいている||よい

夏

夜||よい

・ 月||よい  
・ 多くの蛍が闇の中||よい  
・ 一匹・二匹の蛍||趣がある  
・ 雨が降る||趣がある

重要語句

2 ○趣がある||しみじみとした味わいがある。

演習問題の板書例

1

特にやらなければならないことがない||もの寂しい

← 一日中心にうかんだこと||どうでもいいこと

← 文章を書く

← 気持ちが高ぶる

2

鶏 金のかたまりを産む

← 一日につき一個産む

← ある人はもっと産ませたい

← 鶏を責める||たたく

← 鶏 毎日一個金のかたまり...責めた効果↓なし

重要語句

1 ○もの寂しい||とりわけ原因がないにもかかわらず感じるさびしさ。